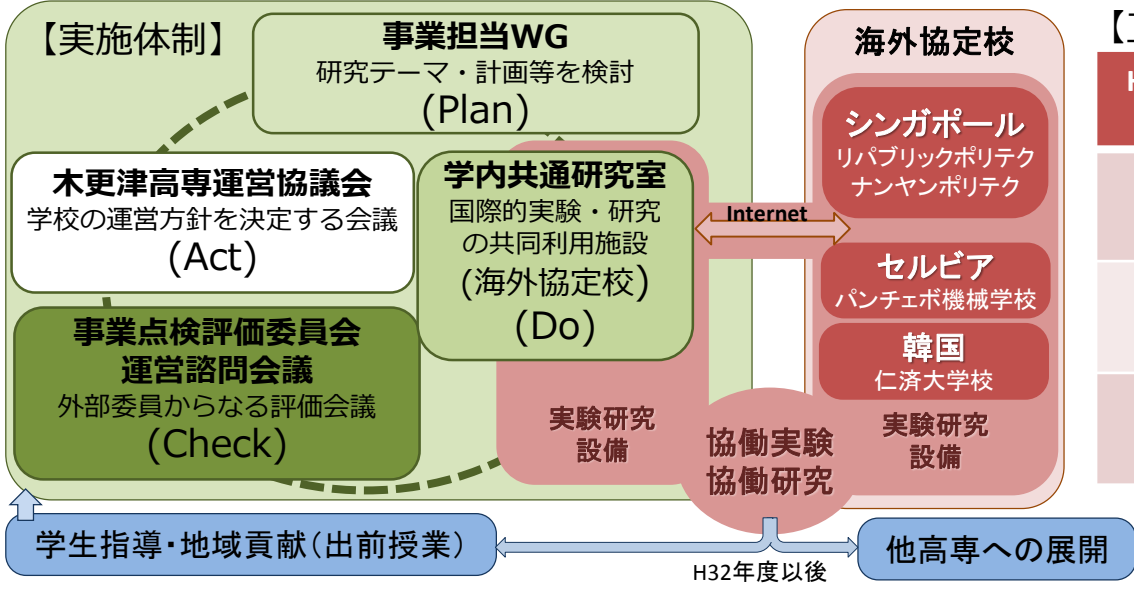


【取組の目的、内容】

高専生は将来企業において、グローバル環境下で互いに海外等遠隔地の施設にしながら共通の課題を共同して開発・設計することが想定される。そこで必要となるスキルを身に付けた技術者（国際遠隔コラボレイティブエンジニア）を育成するため、IT環境・共通ワークスペースや共通プラットフォームを整備し、教材を開発する。さらに海外との時差を埋めるために、時間外の教育プログラムの開発を試み、海外教育機関との連携を試行し、平成31年度からの運用と拡大を目指す。



【工程表】

H30/4月 ～ 6月	7月 ～ 9月	10月 ～ 12月	H31/1月 ～ 3月
作業環境の 検討	作業環境の 整備	作業環境の 試用・運用	作業環境の 運用
教材の検討	教材の 開発	教材の 修正と追加	教材のデータ ベース化
	学生指導と フィードバック	学生指導と フィードバック	

【成果指標】

- ✓ 遠隔コラボレーションに参加する学内・海外研究室の数：0 → 学内 3 研究室 (H30年度)
- ✓ 遠隔コラボレーションによる国際交流事業への参加学生：0 → 学内 15名 (主に平成31年1月・2月)
- ✓ 適切な課題や自作テキスト数 0 → 日英2言語で6種類 (H30年度)

【第4期中期目標期間への展開 (見込み)】

- ✓ 国際遠隔コラボレーションは、国内に居ながら国際交流が可能であり、学生にとって渡航費用負担のない国際交流である。また多くの学生が国際交流に触れる機会を作ることになり、今後、国際交流のコアプログラムの一つになる。
- ✓ 本校における国際遠隔コラボレーションの成果を他高専へ情報提供する。